

第5回 日本医学会連合 Rising Star リトリート

実施報告書

2026年6月

目次

1. 概要
2. 実施体制
3. 開催までの準備状況
4. 参加者によるレポート
5. アンケートとその結果
6. 総括
7. 会場風景（写真集）
8. 参考資料

1. 概要

- ・ イベント名：第5回 日本医学会連合 Rising Star リトリート
- ・ テーマ：ノーベル賞への第一歩－若手研究者が切り拓く基礎医学
- ・ 会期：2026年5月28日（木）～29日（金）
- ・ 会場：ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センター
- ・ 参加者：62名（日本医学会連合基礎部会所属研究者 49名（うち、若手企画委員 6名）、臨床部会所属研究者 4名、特別講演講師 1名 シニア企画委員 5名、日本医学会連合理事 3名）
- ・ 学術プログラム：特別講演 1件、口頭発表 25件、ポスター発表 28件

2. 実施体制

- ・ 担当副会長 高橋雅英
- ・ 教育・研究推進委員会委員長 岡部繁男
- ・ シニア企画委員 5名
飯田薫子（日本栄養・食糧学会、企画委員長）、杉田隆（日本医真菌学会）、橋本均（日本薬理学会）、垣内力（日本細菌学会）、岩崎靖（日本神経病理学会）
- ・ 若手企画委員 6名
後藤剛（日本栄養・食糧学会）、浅井智子（日本栄養・食糧学会）、上野圭吾（日本医真菌学会）、道長昌太郎（日本薬理学会）、石川一也（日本細菌学会）、倉重毅志（日本神経病理学会）

3. 開催までの準備状況

- 3－1. これまで、2019年3月に第1回リトリート、2023年3月に第2回リトリート、2024年6月に第3回リトリート、2025年5月に第4回リトリートを開催し、2026年度に引き続き第5回リトリートを開催することとなった。
- 3－2. 第5回のリトリートを開催するため、第4回の2つの企画当番学会（日本栄養・食糧学会、日本医真菌学会）に加えて新たに3学会（日本薬理学会、日本細菌学会、日本神経病理学会）を追加して、5学会を企画当番学会として、開催の準備に入った。
シニア企画委員：飯田薫子（日本栄養・食糧学会/企画委員長）、杉田隆（日本医真菌学会）、橋本均（日本薬理学会）、垣内力（日本細菌学会）、岩崎靖（日本神経病理学会）、
若手企画委員：浅井智子（日本栄養・食糧学会）、後藤剛（日本栄養・食糧学会）、上野圭吾（日本医真菌学会）、道長昌太郎（日本薬理学会）、石川一也（日本細菌学会）、倉重毅志（日本神経病理学会）
- 3－3. 2025年10月17日に企画会議を開催し、以下のように計画した。
- ・ イベント名：第5回 日本医学会連合 Rising Star リトリート
 - ・ テーマ：ノーベル賞への第一歩－若手研究者が切り拓く基礎医学
 - ・ 会期：2026年5月28日（木）～29日（金）

- ・ 会場：ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センター
 - ・ 参加対象
 - a) 基礎部会所属 15 学会に参加者の推薦を依頼する。
 - b) 臨床系の学会からオブザーバー参加 (2 学会) は臨床内科部会から日本老年医学会、臨床外科部会から日本癌治療学会とする。
 - ・ 参加者は日本医学会連合基礎部会関連学会所属の若手研究者約 50 名（教授から大学院生まで、身分・役職は問わず、年齢は概ね 45 歳まで）。その分野の新進気鋭の研究者であることを条件とする。
 - ・ 発表はオーラル、ポスターの 2 つの形式とし、若手研究者全員が発表する。
 - ・ 特別講演は企画委員長の推薦により後藤由季子先生（東京大学）に依頼する。
 - ・ 参加者が交流できる場と時間を設定する。
- 3－4．2025 年 10 月 31 日付にて基礎部会 15 学会、日本老年医学会、日本癌治療学会に対して、参加者の推薦を依頼した。期日は 12 月 5 日とした。
- 3－5．抄録は、2025 年 12 月 24 日に登録を依頼し、1 月 30 日を期日とした。
- 3－6．抄録を確認し、分野ごとにまとめ、発表形式を振り分けた。
- 3－7．2026 年 3 月 10 日に企画会議をオンラインで開催し、全体の運営を確認した。
- ・ 優秀発表者に対する顕彰は、オーラルについては各セッション終了後、ポスター発表については 2 日目の発表終了後に参加者の投票により、オーラル、ポスターそれぞれ上位 3 名を選出し、「日本医学会連合 Rising Star リトリート優秀賞」の賞状を授与することとした。
 - ・ 前回同様にリトリート終了後、参加者アンケートを実施することとした。
- 3－8．抄録集を 5 月 22 日に参加者に対して案内した。

4. 参加者によるレポート

第5回日本医学会連合 Rising Star リトリート印象記

日本生理学会推薦

京都府立医科大学 大学院医学研究科 細胞生理学

相馬 祥吾

このたびは、日本生理学会よりご推薦をいただき、ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センターで2日間にわたって開催された第5回日本医学会連合 Rising Star リトリートに参加させていただきました。

本リトリートでは、日本医学会連合に加盟する多数の学会から推薦された基礎・臨床医学の若手・中堅研究者が一堂に会し、口頭発表やポスターセッションを通じて密度の濃い議論を交わすことができました。解剖・生化学・薬理・免疫・腫瘍・感染症・遺伝・老年医学など多岐にわたる分野の先生方の最前線の研究を直接聞く機会は、普段の学会では得難いものでした。自分の研究を専門外の方にどう伝えるか、背景の説明をどこまで丁寧に行うか、といったプレゼンテーションの組み立てを実践的に考える良い訓練の場にもなりました。異分野の聴衆からいただく率直な質問は、専門家同士では気づきにくい視点を与えてくれるものであり、自身の研究の意義を改めて問い直す契機になりました。

私は「光遺伝学を用いて挑む化学感覚情報処理の解明」という演題で口頭発表を行い、優秀賞を頂戴しました。専門の異なる参加者の方々に味覚研究や気道防御反射研究といった化学感覚研究の面白さを感じていただけたとすれば、望外の喜びです。

また、本リトリートはキャリアを考える場としても非常に貴重でした。日本医学会連合 副会長の高橋雅英先生や教育・研究推進委員会委員長の岡部繁男先生から、研究者としてのキャリア形成や研究室主宰者（PI）を目指すことの意義について懇親会の席にてお話を伺えたことは、大変貴重な経験となり、本リトリートの魅力の一つだと感じました。

さらに、同様の志を持つ参加者と率直に語り合う中で、横のつながりが自然と生まれ、今後の互いの研究を支え合えるような関係性が築けたことも、本会ならではの収穫でした。リトリートを通じて複数の先生方との共同研究の可能性についても話が弾み、具体的な展開が生まれそうな手応えを感じています。

特別講演では、東京大学薬学系研究科の後藤由季子先生による、神経幹細胞の運命選択機構に関する体系的かつ壮大な研究発表を拝聴しました。長年にわたって一つの問いを深め続け、分子から個体レベルまでを貫く研究の全体像を示してくださったその姿に、大いに鼓舞されました。自分もいつか、このような奥行きと一貫性を持った研究を構築したいという思いを新たにしました。

今回のリトリートで得た刺激と縁を大切に、今後の研究に活かしてまいりたいと思います。このような場を企画・運営してくださった先生方、そして推薦してくださった日本生理学会に、改めて心より御礼申し上げます。

第5回 日本医学会連合 Rising Star リトリート印象記

日本癌学会推薦

千葉大学大学院医学研究院 呼吸器内科学

池田 英樹

このたび、第5回日本医学会連合Rising Starリトリートに参加させていただき、まずは、このような素晴らしい会を準備してくださった先生方、企画運営に携わられた皆様に、心より御礼申し上げます。琵琶湖畔のピアザ淡海で、湖の静かな景色を眺めながらの二日間でした。日常から少し距離をとって研究に向き合えるという意味で、リトリートという言葉がそのまま当てはまるような、落ち着いた素晴らしい会場であったと感じました。

正直に申しますと、参加者の名簿を眺めても知り合いが一人もおらず、出発前は少しばかり気後れがありました。加えて、参加の数日前に疲れが重なって顔面神経麻痺を発症してしまい、自分でも気分が沈んだまま新幹線に乗り込みました。それでも初日の会場の雰囲気はとても柔らかく、すぐに様々な演者の先生方と言葉を交わすことができたのが救いでした。

発表は想像していた以上にインパクトの大きな内容が多く、かついずれも同世代の先生方がご自身で研究を主導しておられ、その姿勢に強く刺激を受けました。10分という限られた発表で異分野の研究のすべてを理解できたかと言われると正直心許ないのですが、各演者の方々が「どこが研究の肝なのか」「どこにブレイクスルーがあったのか」を丁寧に伝えてくださっていて、分野を越えても本質的な議論にすぐに入っていける構成になっていたように思います。発表後の質疑も、批判というよりは「こうしたらどうか」と互いにアドバイスを出し合うような前向きなやり取りが中心で、その中で自分の研究を別の角度から見直すきっかけをいくつももらいました。共同研究につながりそうな先生方とも何人か具体的に話を進めることができ、これはこの会に参加しなければ得られなかった出会いだと感じています。

琵琶湖と街の景色を一望できるすばらしい会場で、懇親会は夜の22時過ぎまで続き、年齢も分野も近い先生方と研究の話から現在、将来の悩みまでざっくばらんに語り合うことができました。副題にあるとおり、ノーベル賞の第一歩を目指せるような次世代のエネルギーな先生方とこうして繋がりを持てたことは、これからの研究者人生にとって大きな財産になるものと感じています。

最後になりますが、このような貴重な場を企画運営してくださった先生方、ご推薦くださった日本癌学会の皆様に、重ねて深く御礼申し上げます。

第5回日本医学会連合 Rising Star リトリート印象記

日本細菌学会推薦

金沢大学医薬保健研究域医学系細菌学

松村 拓大

この度、日本細菌学会からのご推薦を受け、第5回日本医学会連合 Rising Starリトリートに参加させていただきました。琵琶湖畔という素晴らしいロケーションのもと、医学を基盤とした最先端の研究に分野横断的に触れることができ、大変貴重な機会となりました。

若手研究者の交流を目的としていると事前に聞いていた本会ですが、全日程を通じて、医学・科学と濃密に向き合う有意義な時間を過ごすことができました。東京大学の後藤先生による特別講演では、全く異なる二つの壮大なテーマについてのご講演を拝聴し、その革新性に深く感銘を受けました。同時に、サイエンスを楽しむことの本質に触れたようにも感じました。素晴らしいご講演に心より感謝申し上げます。口頭発表、ポスター発表はいずれも、私が普段参加している学会ではなかなか接することのできない内容が多く、どの演題も大変興味深いもので、それぞれの先生方がご自身のテーマを深く追究されていることが強く伝わってきました。発表後には活発な議論が交わされ、様々な角度から質問やアイデアが飛び交う様子を圧倒される思いでした。おそらく多くの聴衆にとって必ずしも馴染みの深くないテーマであったにもかかわらず、研究の意義やインパクトを分かりやすく、かつ的確に伝えてくださる先生方のご発表は、プレゼンテーションの観点からも非常に学びの多いものでした。一方で、講演内容を瞬時に理解し、的確な質問をされる参加者の皆様のレベルの高さにも大変驚かされました。私自身、ご講演や質疑応答を通じて多くの知識と示唆を得ることができ、本会へ参加できていることに喜びを感じました。

私の研究は、細菌学の中でも特に一般性に乏しいテーマであると自覚しておりますが、多くの先生方に興味を持っていただけたように思います。研究の意義を丁寧に汲み取っていただいたうえで、鋭く本質を突くご質問や、今後のブレイクスルーにつながり得るご助言を数多くいただきました。自分の研究に集中するあまり凝り固まっていた考え方を、異分野の視点から解きほぐしていただいたような感覚がありました。また交流会では、研究の話にとどまらず、さまざまな雑談を通じて人と人とのつながりを築くことができたことも、本会の大きな醍醐味の一つであったと感じております。こうしたつながりの中から、これまでにない分野横断的で独創的な研究テーマが生まれていくのではないかと思います。私自身も、この出会いを大切にしながら、今後もさまざまなテーマに挑戦し、医学・科学の発展に少しでも貢献できればと考えております。

改めまして、このような素晴らしいリトリートを企画・運営してくださった日本医学会連合の先生方に、心より御礼申し上げます。演題プログラムはもちろんのこと、交流会やジョギング企画など、参加者が楽しく、安心してリトリートに参加できるよう細やかなご配慮を随所に感じました。また、貴重な機会を与えてくださいました日本細菌学会の先生方に感謝申し上げます。異分野融合が強く求められている現代において、それを実際に体現できる本リトリートは、極めて貴重な場であると感じます。今後も本リトリートがますます盛況に継続していくことを心より願っております。

第5回日本医学会連合 Rising Star リトリート印象記

日本医真菌学会推薦

帝京大学医真菌研究所

宮下 惇嗣

このたびは、第5回日本医学会連合 Rising Star リトリートに参加させていただき、誠にありがとうございました。2026年5月28日、29日の2日間、滋賀県大津市のピアザ淡海において、基礎医学の多様な領域で研究に取り組む若手研究者の先生方と、密度の高い時間を過ごすことができました。本リトリートの主題である「ノーベル賞への第一歩―若手研究者が切り拓く基礎医学」という言葉の通り、分野は異なっても、未知の現象を理解したい、医療や社会に資する知へつなげたいという共通の熱量が会場全体に満ちていたことが強く印象に残っています。

私は「カイクモデルを用いた感染症基礎研究」という演題でポスター発表の機会をいただきました。カイクを安価で迅速な代替モデルとして用いるだけでなく、宿主応答や免疫プライミングを組み込んだin vivo基盤として感染症研究・創薬研究に展開したい、という自身の考えを、真菌学、細菌学、免疫学、薬理学、神経科学、栄養学など幅広いバックグラウンドを持つ先生方に聞いていただけたことは、大変貴重な経験でした。ポスターdiscussionでは、疾患モデルとしての外挿可能性、動物実験代替法としての位置づけ、薬剤スクリーニングにおける評価軸など、普段の専門領域内では得にくい角度から多くのご質問とご助言をいただきました。自分の研究を異分野の言葉で説明し直す過程そのものが、研究の強みと課題を見つめ直す機会になりました。

また、Flash Talkや懇親会を通じて、初対面の先生方とも自然に議論を始められる雰囲気が作られていたことも、本リトリートならではの魅力でした。口頭発表では、細胞生物学、代謝、遺伝学、がん、神経科学、感染症など、それぞれの領域で最先端の問いに挑む研究を拝聴し、基礎医学の広がりとお行きを改めて実感しました。後藤由季子先生の特別講演「細胞の運命選択メカニズム」では、基礎的な生命現象を深く掘り下げることが、発生、老化、疾患理解へと展開していく力強さに感銘を受けました。自分自身の研究でも、モデルの利便性に留まらず、生命現象として何を明らかにしたいのかをより明確にしていける必要があると感じました。

このような場で、参加者の先生方による投票を通じて優秀賞に選出いただいたことは、身に余る光栄であり、大きな励みとなりました。ご評価くださった皆様に心より御礼申し上げます。今回得られた出会いと議論を大切に、カイクモデルを用いた感染症基礎研究を、異分野との連携や創薬応用へとさらに発展させていきたいと思います。最後になりますが、本リトリートを企画・運営してくださった日本医学会連合ならびに関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。

第5回日本医学会連合 Rising Star リトリート印象記

日本生理学会推薦

北海道大学 大学院獣医学研究院 生理学教室

矢野（梨本）沙織

この度、日本生理学会のご推薦をいただき、第5回日本医学会連合 Rising Starリトリートに参加させていただきました。このような貴重な機会を頂きましたことを、推薦くださいました日本生理学会ならびに企画・運営にご尽力いただきました先生方に心より御礼申し上げます。

Rising Starリトリートは、各学会から推薦を受けた若手研究者が集う場と伺っておりましたので、抄録集を見た時点から自分は場違いではなかろうか、と少々気圧されておりました。実際、発表はどれも非常にレベルが高く、異分野の研究が集まっていることもあって大変刺激的でした。また、「専門外の人にも意義や結果が伝わるように」という事前案内の重要性を改めて実感し、先生方がどのような工夫で研究を伝えているのかを学ばせていただきました。後藤由季子先生の特別講演も非常に興味深く、普段は質問に出るのをためらいがちな私ですが、思わずマイクの前に立ってしまいました。

初日の発表が終わった時点ではやや緊張も残っておりましたが、懇親会で多くの先生方とお話しする中で、研究上の悩みや苦労は皆それぞれに抱えているのだと感じ、次第に肩の力が抜けていきました。研究費獲得の工夫や研究室運営についての話も伺うことができ、大変勉強になりました。気が付けば会場撤収の時間まで話し込んでしまっていました。

翌朝は、懇親会で知り合った先生方と有志ジョギングにも参加しました。あっという間に脇腹が痛くなり運動不足を痛感しましたが、快晴の空の下、びわ湖を眺めながら走る時間は非常に贅沢なものでした。

私は普段、研究室で自分の興味あるテーマに没頭することが多く、ともすれば学会参加からも足が遠のきがちでした。しかし今回のリトリートへの参加を通じて、その姿勢を少し見直したいと感じました。優れた研究は一人の努力だけで生まれるものではなく、異分野との交流や協力によって新たな視点が生まれ、大きな発展につながることを改めて実感しました。今後もこのような交流の場が継続し、本当にノーベル賞につながるような研究が生まれることを願っております。

第5回日本医学会連合 Rising Star リトリート印象記

日本骨代謝学会推薦
神戸大学大学院医学研究科 免疫学分野
菊田 順一

このたび、日本骨代謝学会よりご推薦いただき、第5回日本医学会連合 Rising Star リトリートに参加する貴重な機会を頂戴しました。まずは、本リトリートを企画・運営して下さった日本医学会連合の先生方、ならびにご推薦くださいました関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

本リトリートは、「ノーベル賞への第一歩 — 若手研究者が切り拓く基礎医学」をテーマに、幅広い分野の研究者が集い、分野を越えて活発に議論を交わす大変刺激的な場となりました。私はこれまで、生体イメージング技術を用いて、生きた個体内における免疫細胞の動態を直接「見る」ことで、病態の理解を深める研究に取り組んできました。今回の発表では、「生命現象を『見る』ことで病態を捉え直す」という視点から、生体イメージングが骨代謝研究・免疫学研究にもたらす新たな可能性について紹介しました。

今回のリトリートでは、異分野の先生方とのディスカッションを通じて、自身の研究を新たな角度から見つめ直すことができました。他の先生方のご発表からは、対象とする生命現象や疾患は異なっても、「まだ見えていないものを明らかにしたい」という探究心が共通していることを実感しました。また、休憩時間や懇親会でも自然に会話が生まれ、研究の話から研究者としての悩みまで率直に語り合うことができました。日常の研究環境を離れ、同世代の研究者と分野を越えて交流できたことは、まさに「リトリート」という言葉にふさわしい経験でした。

このたびは大変光栄なことに、優秀賞選出いただきました。分野を越えた先生方に研究内容をご評価いただけたことは、今後の研究を進めていく上で大きな励みとなります。同時に、今回の受賞は、これまで共に研究を進めてきた共同研究者、研究室のメンバー、そしてご指導・ご支援くださった多くの先生方のお力添えによるものと、深く感謝しております。

今回のリトリートを通じて、生体イメージングによって生命現象を直接「見る」ことの意義を改めて実感するとともに、病態理解を医療応用へとつなげるためには、多様な分野との連携が不可欠であることを再認識しました。本リトリートで得たご縁と刺激を大切に、難治性疾患の理解と克服に向けて、今後も研究を発展させてまいりたいと思います。

最後になりましたが、本リトリートの開催にご尽力くださいました日本医学会連合の先生方、運営スタッフの皆様、そして活発な議論を交わして下さった参加者の皆様に、改めて厚く御礼申し上げます。本会が今後も分野横断的な交流と新たな医学研究の芽を育む場として、ますます発展されることを心より祈念しております。

第5回日本医学会連合 Rising Star リトリート印象記

日本栄養・食糧学会推薦
京都大学大学院農学研究科
浅井 智子

このたびは、日本医学会連合 Rising Star リトリートに参加させていただく貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。まずは、本リトリートを企画・運営してくださった先生方、ならびにご推薦くださった関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

本リトリートでは、普段の学会ではなかなか出会うことのない多様な分野の先生方と交流することができ、大変刺激的で実り多い時間を過ごすことができました。私は食品科学、特に栄養・食糧の観点から人の健康に関わる研究に取り組んでいますが、今回、医学系の先生方と議論する中で、改めて「人の健康に貢献する」という研究の原点を見つめ直す機会となりました。栄養や食品の研究は、日々の食生活に根ざした身近な学問である一方で、その先には疾患予防、健康寿命の延伸、生活の質の向上といった医学的・社会的な課題が広がっています。そうした意味で、医学系の先生方と直接意見を交わすことは、私自身の研究をより広い視点から考えるうえで非常に重要であると感じました。

特に印象的だったのは、専門分野が異なるからこそ生まれる新鮮な問いや視点です。自分では当然と思っていた研究の背景や意義について、異なる立場の先生方から質問をいただくことで、自身の研究の伝え方や位置づけを見直すきっかけとなりました。また、発表やポスターでの議論を通じて、今後の共同研究につながる可能性も感じることができました。単なる情報交換にとどまらず、研究の新しい展開を考える種をいただけたことは、本リトリートの大きな収穫でした。

また、本リトリートの魅力は、研究発表の場だけにとどまらない点にもあると感じました。食事や懇親会での会話に加え、早朝のジョギングにも参加し、研究以外の時間を共有することで、先生方との距離が一気に近くなったように思います。走りながら交わす何気ない会話の中にも、それぞれの研究への向き合い方や日々の悩み、将来への思いが垣間見え、通常の学会では得がたい貴重な交流となりました。研究者同士が肩書きや専門分野を越えて自然に語り合える雰囲気は、本リトリートならではの素晴らしさだと思います。

今回の経験を通じて、食品科学や栄養学の研究を医学・生命科学の大きな流れの中で捉え直すことの重要性を強く感じました。異分野の先生方との出会いを大切に、今後はより積極的に分野を越えた議論や共同研究に取り組んでいきたいと思っています。

最後になりますが、このような貴重な機会を与えてくださった日本医学会連合の先生方、企画・運営にご尽力くださった先生方、そして参加者の皆様に、改めて深く御礼申し上げます。本リトリートで得たご縁と学びを、今後の研究活動にしっかりと活かしてまいりたいと思います。

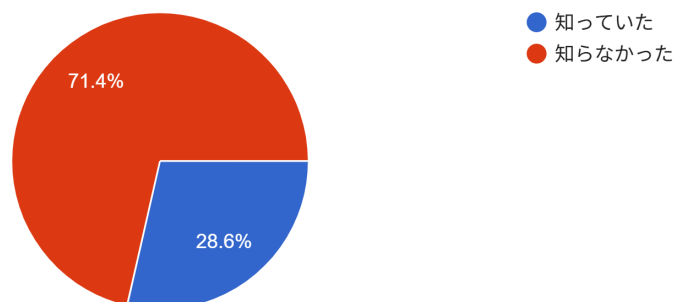
5. 参加者アンケート結果

第5回日本医学会連合 Rising Star リトリート アンケート

回答：56 名

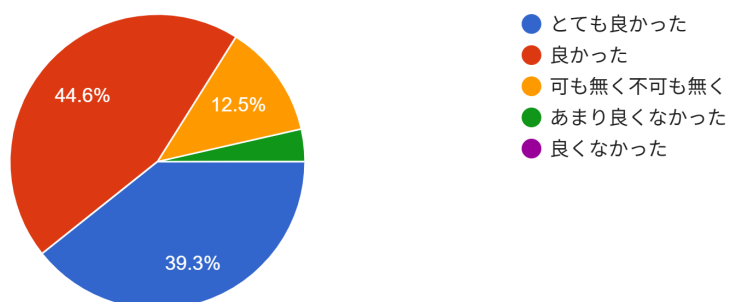
Q1: 今回のリトリートに参加する以前に、リトリートについてご存知でしたか？

56 件の回答



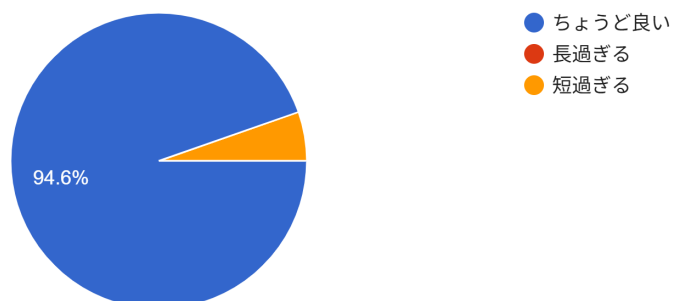
Q2: 5月下旬の開催について

56 件の回答



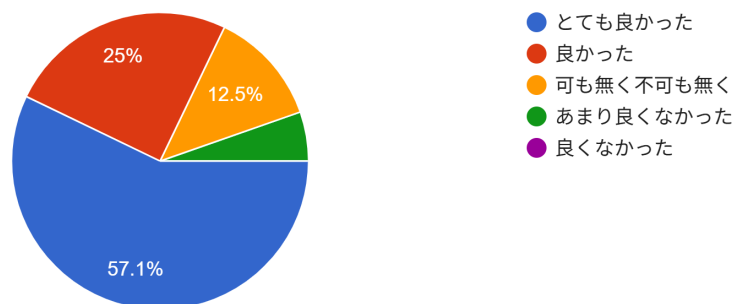
Q3: 開催期間（1泊2日）について

56 件の回答



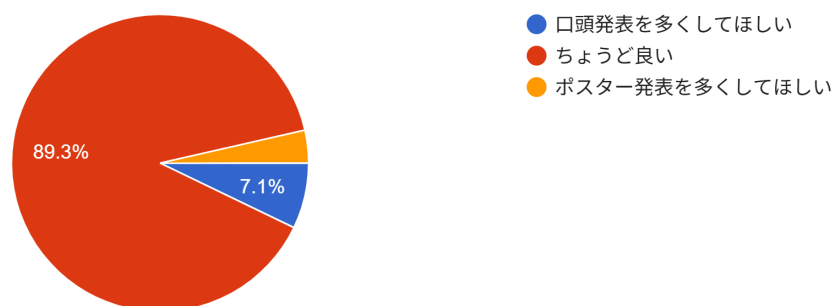
Q4: 開催場所（大津）について

56 件の回答



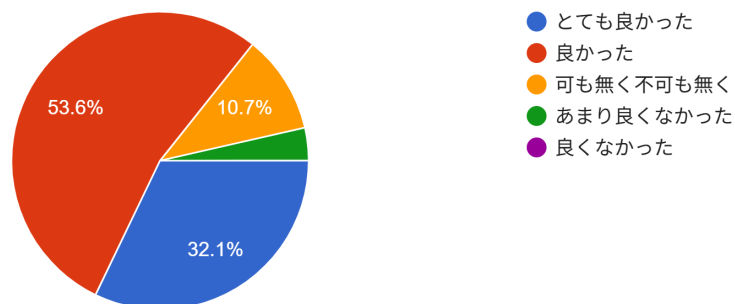
Q5: 口頭発表とポスター発表の演題数のバランスについて

56 件の回答



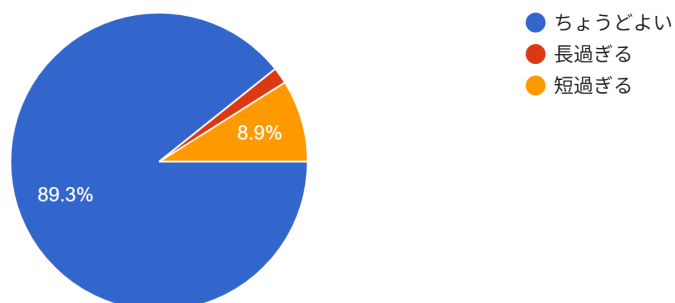
Q6: 口頭発表のセッション分けについて

56 件の回答



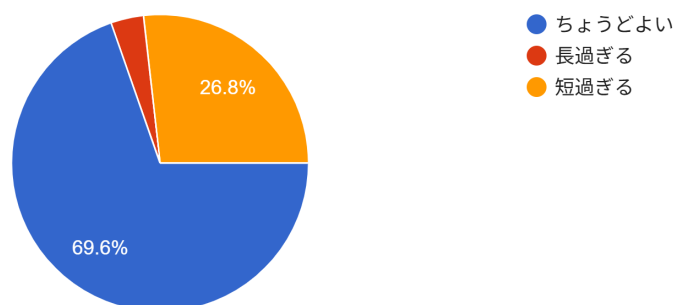
Q7: 口頭発表の時間について

56 件の回答



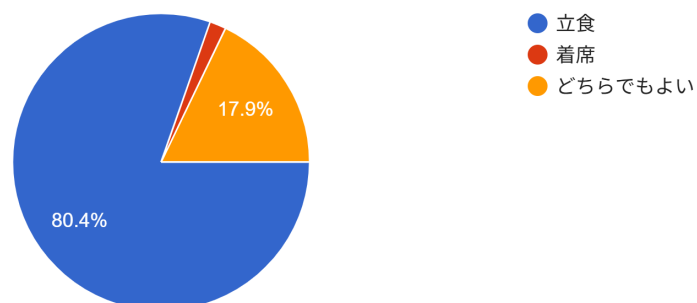
Q8: ポスター発表の時間について

56 件の回答



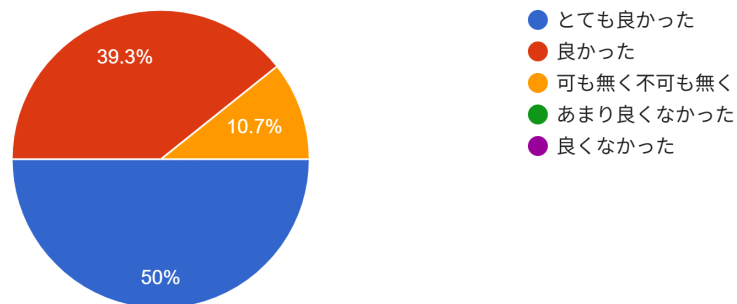
Q9: 食事の形式は、立食・着席のどちらがリトリートに適すると思いますか？

56 件の回答



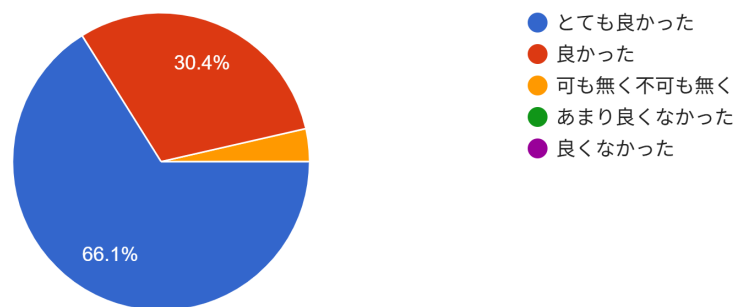
Q10: 懇親会の内容や時間、お酒の量などはいかがでしたか？

56 件の回答



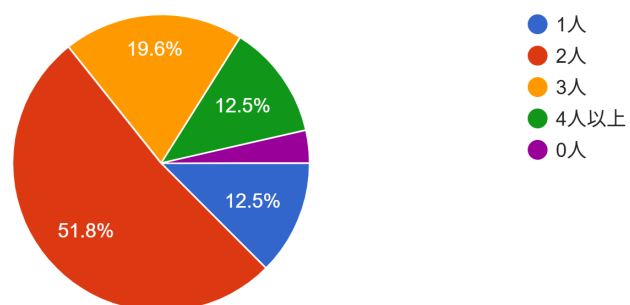
Q11: 異分野交流について

56 件の回答



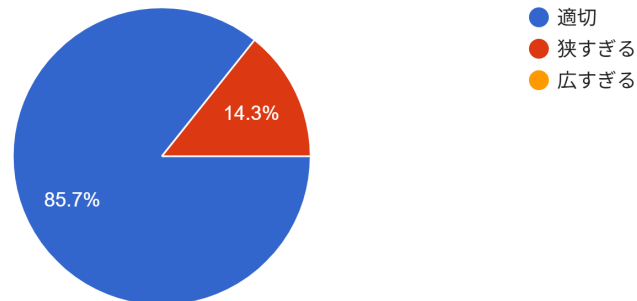
Q12: 所属学会以外の参加者で共同研究をしてみたいと思った参加者の人数は？

56 件の回答



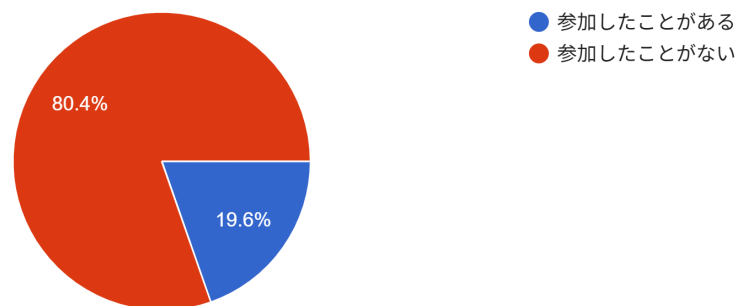
Q13: 今回のリトリートは医学会連合の基礎系の学会と臨床系2学会のみの参加でしたが、異分野交流を行う範囲としてこれが適切でしょうか？

56 件の回答



Q14: 類似の異分野交流リトリートについて

56 件の回答



Q15: 特別講演の招待演者のご希望をご回答ください

- ・ 堅田利明先生
- ・ 坂口志文先生
- ・ 河本宏先生
- ・ 中山雅敬先生 石井優先生 藤田恭之先生
- ・ 山中伸弥先生
- ・ 星野歩子先生
- ・ 諸石先生(東京科学大学)
- ・ 中山敬一先生
- ・ 柳沢正史先生
- ・ 吉川雅英先生
- ・ 水島昇先生
- ・ 武部貴則先生
- ・ 石井健先生
- ・ ノーベル賞受賞者
- ・ 中西真先生

Q16: 特別講演以外にこのリトリートで実施してほしい企画等あればご記入ください

- ・ グループディスカッション
- ・ 日程的に厳しいかもしれませんが、エクスカージョンがあるとずっと交流できて良いと思います
- ・ ソーシャルなイベントがもう少しあるといいなと思いました
- ・ 話したかった先生方と時間的に話しきれなかったため、ポスターの時間をもう少し長くしたり、お菓子などをつまみながらの交流タイム的なものがあると個人的には嬉しかったです
- ・ 研究内容とともにキャリアのお話をお聞きしたいです
- ・ パネルディスカッション
- ・ キャリア形成に関する講演
- ・ 懇親会時にレクリエーションがあれば嬉しいです。各分野からのクイズや体を動かすゲーム

6. 総括

まず初めに、本リトリートの開催にあたり、ご支援を賜りました日本医学会連合の門脇先生、ご指導いただいた高橋先生、本間先生、企画運営にご尽力いただいた各学会の企画委員の先生方、そして実務を一手に担ってくださった医学会連合事務局の皆様に、心より御礼申し上げます。

私は今回で2回目の参加となります。2025年開催の第4回リトリートに初めて参加し、本会の趣旨や、発表研究のレベルの高さ、特別講演の素晴らしさ、そして若手研究者の活気に深く感銘を受けました。そのため、半ば強制的に（？）今回の企画委員長を依頼された際にも、不安はありましたが、この素晴らしい会に貢献したいとの思いでお引き受けしました。以来1年間準備を進めてまいりましたが、無事に終えることができ安堵しております。

今回のリトリートでも、口頭発表・ポスター発表ともに、やはり各学会を代表する研究者の発表はいずれもレベルが高く、多くの刺激を受けました。また、後藤由紀子先生による特別講演は、世界の最前線を走る研究の醍醐味を感じさせるものであり、そのスマートかつ大胆な研究内容に参加者の皆様も酔いしれたのではないかと思います。ご多忙の中、本会の趣旨にご賛同いただきご登壇くださった後藤先生に、改めて感謝申し上げます。このような優れた研究者から直接学べることも、本リトリートの大きな魅力の一つです。

運営面では、口演・ポスター発表に加え、フラッシュトークや懇親会など、前回の形式を概ね踏襲しました。参加者アンケートからも全体的に高い満足度がうかがえ、良かったと思います。またジョギング企画には多くの先生がご参加いただき、企画くださった若手委員の後藤先生、浅井先生も含めて、お礼申し上げます。一方で、ポスターセッションでは進行の遅れにより十分な討論時間を確保できなかったことや、会場スペースの関係で一部の発表に人が集中したことなど、改善すべき点もありました。また、懇親会では交流促進を意図して指定席としたことが、結果として自由な交流を妨げる面もあったかもしれず、これらの反省点は今後の運営に生かしていただければ幸いです。

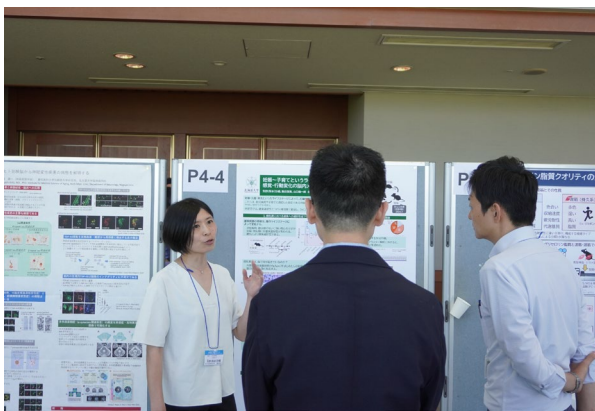
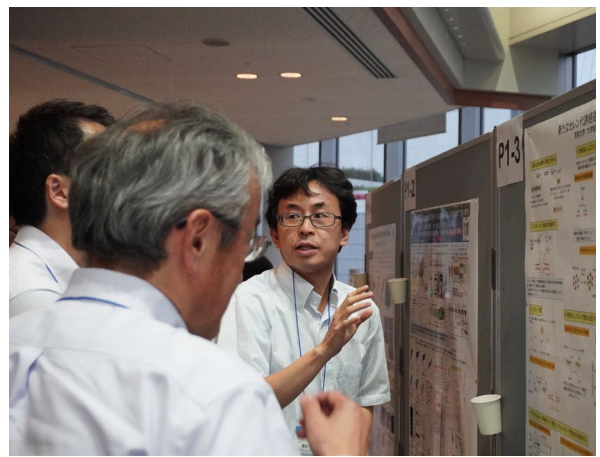
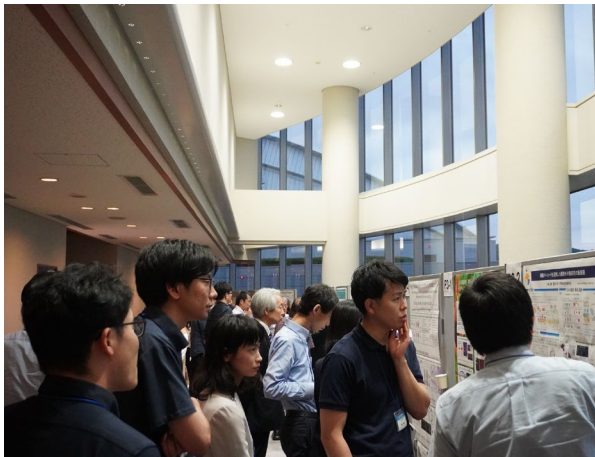
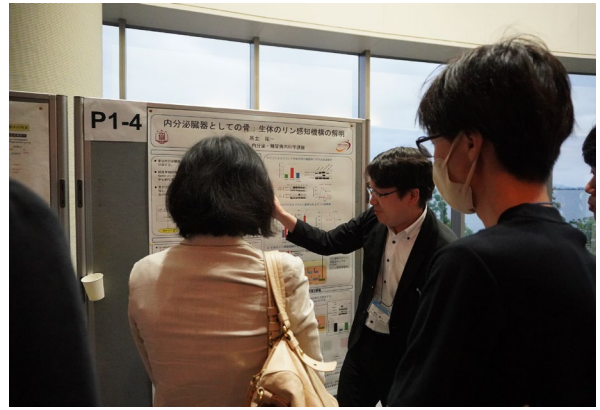
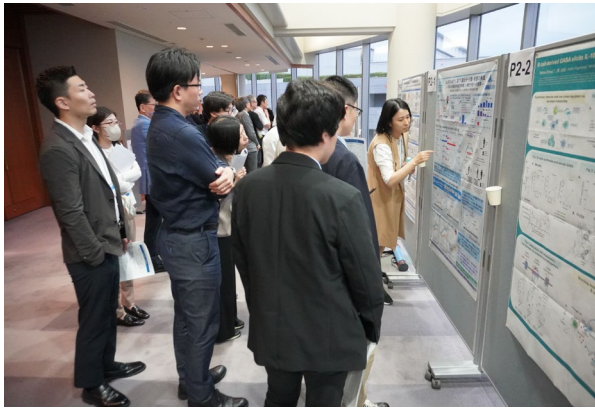
最後となりますが、今回のテーマを「ノーベル賞への第一歩－若手研究者が切り拓く基礎医学」とご提案させていただきました。ノーベル賞というと大袈裟に聞こえるかもしれませんが、しかし、これまで日本の基礎医学を発展させてきたノーベル賞受賞者の先生方も若い頃から賞を目指していたわけではなく、目の前の研究に真摯に取り組んだ結果として、その成果が世界に認められたのだと思います。本リトリートが若手研究者同士の交流を深め、更なる研究の発展につながる場となれば、企画委員長としてこれ以上嬉しいことはありません。今後も末長く本リトリートが継続し、日本の基礎医学の発展を支える場となることを心より願っています。

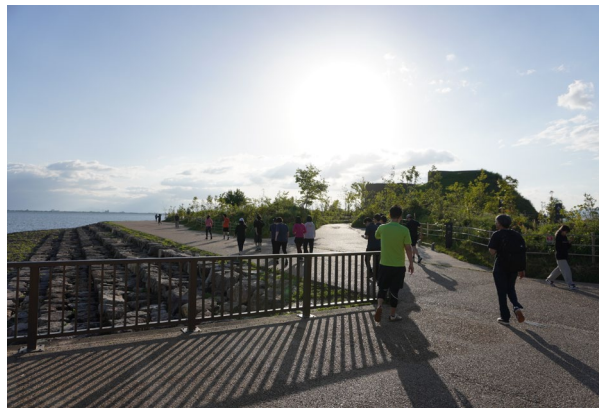
第5回日本医学会連合 Rising Star リトリート
企画委員長 飯田 薫子

7. 会場風景（写真集）











優秀賞受賞者

オーラル発表

光遺伝学を用いて挑む化学感覚情報処理の解明

相馬 祥吾(日本生理学会)

腫瘍微小環境のミトコンドリア伝播を介した免疫逃避機構

池田 英樹(日本癌学会)

ボツリヌス神経毒素の巧妙な体内侵入機構

松村 拓大(日本細菌学会)

ポスター発表

カイコモデルを用いた感染症基礎研究

宮下 惇嗣(日本医真菌学会)

妊娠～子育てというライフステージがもたらす感覚・行動変容の脳内メカニズムの探求

矢野(梨本)沙織(日本生理学会)

生命現象を「見る」ことで病態を捉え直すー 生体イメージングが切り拓く線維症理解の新展開

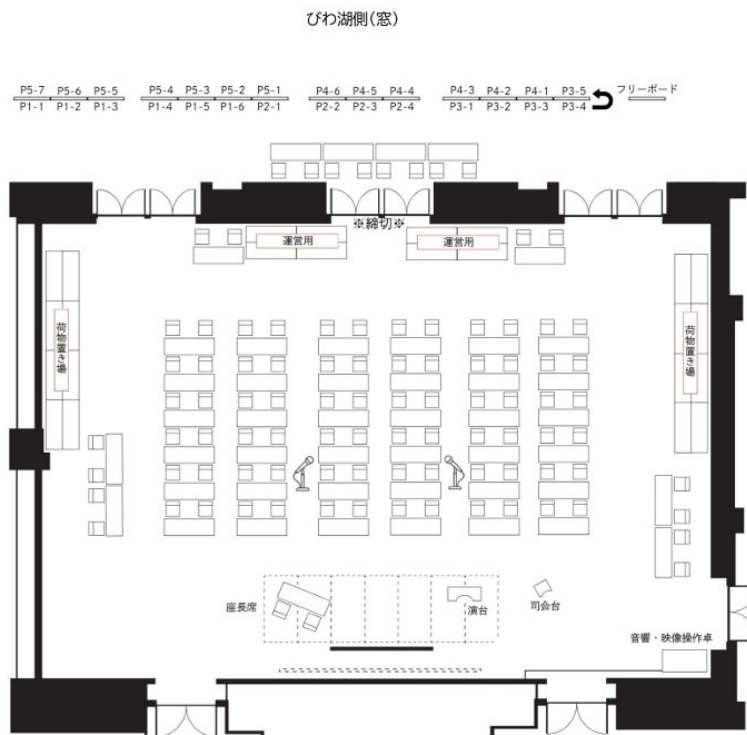
菊田 順一(日本骨代謝学会)

食品由来コラーゲンペプチド(Pro-Hyp)の生体内移行と生体修復機能の解明

浅井 智子(日本栄養・食糧学会)

8. 参考資料

8-1. 会場図



8-2. リトリートプログラム (抜粋)

日本医学会連合 第5回

Rising Star リトリート

ノーベル賞への第一歩 ― 若手研究者が切り拓く基礎医学

会期

2026年5月28日(木)・29日(金)

会場

ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センター
滋賀県大津市におの浜 1-1-20

[抄録集](#)

主催 一般社団法人日本医学会連合

プログラム 5月28日(木)

13:00-13:15 / 開会式 : ピアザ筑後 道真県立県民交流センター 3階 大会議室	
閉会挨拶 日本医学会連合 会長 門脇 孝 (ビザオ)	
閉会挨拶 日本医学会連合 副会長 高橋 規晃	
プログラム案内 第5回Reing Startリトリート企画委員会委員長 飯田 薫子	
13:15-14:35 / オールI Procyon『生化学・細胞生物学・代謝学』 座長：後藤 剛	
01-1	リン脂質スクラッシャーの作用原理
13:15	櫻木 崇晴 (大阪大学免疫学フロンティア研究センター-免疫・生化学/日本生化学会)
01-2	生体中セレン-運送タンパク質の同定・質量分析を用いたフエローション-制御因子の解明
13:31	伊藤 尊哉 (東北大学大学院薬学研究所/日本免疫・薬理学会)
01-3	カレント/ミトコンドリアによる血管機能制御機構の解明
13:47	鈴木 良明 (名古屋市立大学大学院薬学研究所細胞分子基盤解析学分野/日本薬理学会)
01-4	CXCL12陽性樹状細胞はWntシグナルを介して腫瘍形成に寄与する
14:03	永田 瑛 (東京科学大学大学院薬学総合研究科細胞病学分野/日本骨代謝学会)
01-5	脂肪細胞を中心としたエネルギー代謝調節機構
14:19	小栗 靖生 (奈良女子大学研究科生活環境科学系/日本栄養・食糧学会)
14:35-14:45 / 優秀賞投票・ブレイク	
14:45-16:05 / オールII Rigel『免疫学・遺伝学』 座長：上野 豊喜	
02-1	RAS経路を活性化する遺伝子変異による先天免疫の細胞解析
14:45	新堀 智也 (東北大学大学院医学系研究科遺伝免疫学分野/日本人遺伝学会)
02-2	滑液腔クリプトコッカス感染から内因性抗体を制御する予防・診断・治療法に関する研究
15:01	佐藤 光 (東北大学大学院医学系研究科感染免疫学分野/日本医薬学学会)
02-3	ウイルス感染能に対する免疫細胞応答の生体イメージング解析
15:17	榎本 慈史 (国立健康科学推進研究所細胞免疫学国際研究センター/日本免疫学会)
02-4	病理解の立場からみたヒト腫瘍免疫微小環境 ー腫瘍免疫を軸とする腫瘍に注目して
15:33	紅林 泰 (慶應義塾大学医学部免疫学教室/日本免疫学会)
02-5	腫瘍微小環境のミトコンドリア伝達を介した免疫応答機構
15:48	池田 英樹 (千葉大学大学院医学研究科呼吸器内科学/日本胸学会)
16:05-16:15 / 優秀賞投票・ブレイク	
16:15-17:15 / 特別講演 座長：飯田 薫子	
P2 細胞の運動選択メカニズム	
後藤 由季子 (東京大学 薬学部/薬学基研研究科 教授)	
17:15-17:20 / ブレイク	
17:20-17:55 / Flash Talk (ポスター) 座長：石川 一也	
17:55-18:45 / ポスターdiscussion (I『生化学・細胞生物学・代謝学』/II『免疫学・遺伝学』)	
18:45-19:45 / ホテルへ移動 バス1便 18:55分/オール-ポスター-2日目発表者	
バス2便 18:15分/オール-ポスター-1日目発表者 ・チャットクイン	
19:45-21:45 / 懇親会 びわ湖大津プリンスホテル 3階 スカライラウンジ	
解散	

プログラム 5月29日(金)

6:00- / 有志ジョギング	
7:00-9:30 / 朝食・チェックアウト・会場へ移動 バス1便 8:30分/オール-ポスター-2日目発表者	
バス2便 8:50分/オール-ポスター-1日目発表者	
9:30-10:40 / オールIII Sirius『がん・イメージング・新技術』 座長：重喜 敏志	
03-1	光通信を用いた狭小化学感測情報伝達の解明
9:30	相馬 祥吾 (京都府立医科大学大学院医学研究科細胞生化学/日本生化学会)
03-2	転写性制御機構を制御するグリコネットワークの解明
9:46	石橋公二朗 (奈良大学がん遺伝学創研研究所/日本癌学会)
03-3	空間トランスクリプトーム解析による胃癌の新規治療ターゲット探索
9:52	石川 汎 (広島大学大学院医学系研究科分子生物学/日本薬理学会)
03-4	新規光増光プロベローチROMAISの開発およびヒト子宮におけるオクタン駆動の蛍光増光イメージング
10:08	杉崎 綾奈 (防衛医科大学校附属看護学/日本胸科学会)
03-5	膀胱がんバイオバンクを基盤とした統合的解析による個別化医療へのアプローチ
10:24	辻野 拓也 (大阪医科大学医学部泌尿器科学教室/日本癌学会)
10:40-10:50 / 優秀賞投票・ブレイク	
10:50-12:10 / オールIV Deneb『神経および脳科学・実薬学』 座長：渡井 智子	
04-1	非顕性領域リビート網CANVASを用いた神経研究
10:50	中村 治子 (横浜国立大学神経内科学・脳卒中医学教室/日本人脳学会)
04-2	脂質AGE2によるトリプトファン代謝物を介した老化制御メカニズムの解明
11:06	竹下ひかり (大阪大学大学院医学系研究科老年・総合内科/日本老年医学学会)
04-3	難治性癌の免疫抑制に基づく新規がん療法の開発 ーパーキンソン病関連性癌に対する新たなアプローチー
11:22	中村 庸博 (広島大学大学院医学系研究科薬理科学/日本薬理学会)
04-4	実用神経細胞に注目した脳免疫性創薬加速化途の細胞解析
11:38	倉重 敏志 (NHO脳免疫センターー臨床研究部/日本神経病学会)
04-5	ひと前頭葉を用いた神経再生研究 多系統萎縮症における変性神経細胞の試み
11:54	中原 亜紗 (新潟大学脳研究所神経学分野Q&R シブリ/日本神経病学会)
12:10-12:30 / 優秀賞投票・集合写真	
12:30-13:15 / 昼食	
13:15-14:35 / オールV Acheron『感染症』 座長：蓮永昌太郎	
05-1	ポツリスス神経細胞の巧妙な体内侵入機構
13:15	松村 拓大 (徳川大学医薬部研究科地域医学系細菌学/日本細菌学会)
05-2	細胞内寄生虫 トキソプラズマが宿主を破壊し脱出する仕組み
13:31	橋 優汰 (大阪大学微生物病研究所感染免疫学/日本寄生虫学会)
05-3	新型コロナウイルス感染に関与する新規宿主因子の探索
13:47	鈴木 紗織 (九州大学大学院医学研究科ウイルス学分野/日本ウイルス学会)
05-4	Candida aurisの薬剤耐性機構の解明とその克服
14:03	平山 達明 (徳川大学大学院薬学総合研究科臨床感染症学/日本薬理学会)
05-5	植物・植物-細菌を模る学際的植物科学的研究
14:19	石川 一也 (岡山大学研究科臨床薬学/日本細菌学会)
14:35-14:40 / 優秀賞投票・ブレイク	
14:40-15:40 / ポスターdiscussion (III『がん・イメージング・新技術』/IV『神経および脳科学・実薬学』/V『感染症』)	
15:40-15:50 / 優秀賞投票・アンケート	
15:50-16:00 / 表彰式および閉会式	
閉会挨拶 組織委員会 高橋 規晃	
解散	

ポスターセッション (1日目)

P1-1	細胞の役割移動の新原理：頭部神経細胞は二つのニッチを経て筋内層へと遊走する 山本 将仁 (慶応大学大学院医学部神経科学講座/日本神経学会)
P1-2	骨髄血管周囲の局所に存在する幹細胞の同定とATP制御下での挙動 實地 健仁 (東京農科大学生理工学講座/日本生化学会)
P1-3	新たなセレン代謝経路によるフェロトキシosis制御 藤田 宏明 (京都大学大学院医学研究科/日本生化学会)
P1-4	内分泌臓器としての骨：生体のリン感知機構の解明 高士 祐一 (福岡大学医学部内分泌・糖尿病内科学講座/日本骨代謝学会)
P1-5	炎症性老化と老化制御：二つの入口から探る可逆的老化 加瀬 義高 (福岡大学大学院医学研究科/日本老化学会・日本老年医学学会)
P1-6	肥満状態の脂肪組織におけるメバロン酸合成経路の役割 後藤 剛 (京都大学大学院農学研究科/日本栄養・食糧学会)
P2-1	ALDH2 rs871に基づく遺伝子・行動・疾患の関連—日本人の遺伝的背景を考慮した精神予防への展開— 小柳友理子 (慶応義塾がんセンター/日本癌学会)
P2-2	B細胞由来GABAによるマクロファージ制御を介した抗腫瘍免疫抑制メカニズム 草 白浩 (理化学研究所免疫学研究室/日本免疫学会)
P2-3	リピーター配列解析に基づく遺伝変異型ミトパターの病態解明 江浦 信之 (奈良県立医科大学脳神経内科/日本神経病理学会)
P2-4	真菌感染症の免疫回避機構と宿主免疫の基礎研究 上野 圭吾 (国立感染症管理研究所微生物学部門/日本微生物学会)

ポスターセッション (2日目)

P2-1	生命現象を「見る」ことで病態を捉え直す—生体イメージングが切り拓く神経症理解の新展開 菊田 順一 (神戸大学大学院医学研究科免疫学分野/日本骨代謝学会)
P2-2	Dive into the biology of extracellular vesicles with DNA/RNA barcodes 小嶋 良輔 (東京大学大学院医学系研究科/日本生化学会)
P2-3	がんの癌組織を用いた腫瘍内不均一性への挑戦 滝 哲郎 (国立がん研究センター—東病院病理・腫瘍検査科/日本癌学会)
P2-4	イタコン酸誘導体による抗酸化機構破綻に起因したがん細胞増殖抑制機構の解明 林 慶和 (福岡医科大学生体構造学講座腫瘍発生分野/日本癌学会)
P2-5	宿主—細菌間相互作用を標的としたがん治療研究—— 小西 弘晃 (岡山医科大学消化器先端医学講座/日本癌学会)
P2-1	食品由来コラーゲンペプチド (Pro-Hyp) の生体内移行と生体修復機能の解明 浅井 智子 (京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻/日本栄養・食糧学会)
P2-2	抗がん剤誘発性末梢神経障害に対するエストロゲンの影響 相澤 風花 (徳島大学病院総合臨床研究センター/日本癌学会)
P2-3	ヒト前脳から神経変性疾患の病態を解明する 陸 雄一 (慶応医科大学加齢脳科学研究科、名古屋大学神経内科/日本神経病理学会)
P2-4	妊娠—子育てというライフステージがもたらす感覚・行動変容の脳内メカニズムの探求 矢野 (梨本) 沙織 (北海道大学脳科学研究科発生学講座/日本生化学会)
P2-5	骨格筋リン脂質クオリティの生理学的意義解明 佐藤 友紀 (静岡県立大学食品栄養科学部栄養化学研究室/日本栄養・食糧学会)
P2-6	外傷性脳損傷に対する新規治療薬の創出を目指した薬理学的研究 澤永昌太郎 (明治医科大学/日本薬理学会)
P2-1	ストレス調節を介した細菌感染細胞のアポトーシス制御 野澤 孝志 (京都大学大学院医学部微生物学講座発生分野/日本癌学会)
P2-2	マラリア原虫における増殖メカニズムの解明 荒木 瑛沙 (国立感染症管理研究所感染症研究科/日本寄生虫学会)
P2-3	新興・再興ウイルス感染症を制御するための基礎研究 浦木 隆太 (東京大学国際高等研究所新世代感染症センター、東京大学薬科学研究所/日本免疫学会)
P2-4	カイコモデルを用いた感染症基礎研究 宮下 博嗣 (奈良大学医歯研究センター/日本微生物学会)
P2-5	粘膜抗体応答によるウイルス感染症制御の研究 宮本 翔 (国立感染症管理研究所微生物学部門/日本ウイルス学会)
P2-6	腸炎ピロリ菌の病原性発現およびその制御機構の解明 松田 重輝 (大阪大学微生物学研究所細菌学部門/日本癌学会)
P2-7	熱帯熱マラリア原虫におけるリン脂質合成代謝酵素の機能解析と創薬標的としての可能性 櫻本 集平 (慶応大学プロテオミクスセンターマラリア研究部門/日本寄生虫学会)